

特集にあたって

藤枝平成記念病院脊髄脊椎疾患治療センター 高橋敏行

脊髄脊椎疾患の外科治療は、さまざまな神経除圧や矯正固定など根治的な手技が発展を遂げており、良好な機能回復や疼痛制御をもたらしています。一方で、脳や脊髄機能に不可逆的变化をきたし通常の外科治療では限界が生じている病態もいまだに多く存在します。電気刺激や髄腔内薬物投与による脊髄ニューロモデュレーションは、根治的ではないものの難治性の神経機能障害を緩和修飾することにより、痙縮や疼痛、血流障害に対し効果を発揮しています。また、国内では仙骨神経刺激療法（sacral neuromodulation：SNM）が便失禁や過活動膀胱に対して適応が認められています。

残された脊髄機能を最大限有効活用するために、ニューロモデュレーションがいったいどのような病態に、どの程度の効果が期待できるのか？ 最新機器や技術進歩により以前より何が進歩しているのか？ この治療法の現時点での限界や問題点は何か？ について、各エキスパートの先生方にわかりやすく解説をしていただいております。

久保田先生には脊髄刺激療法の原理と治療効果について総論的説明をしていただき、笹森先生と上利先生には、難治性疼痛に対する頸髄および胸腰髄留置法についてデバイスの進歩や具体的手技を提示していただきました。また、立山先生には四肢循環不全による脊髄刺激療法の適応と効果について改善機序を含め詳細に解説いただいております。内山先生と河野先生には、脳および脊髄に由来する痙縮に対するバクロフェン持続髄注療法の期待できる効果と課題について豊富な実績をもとに言及していただいております。関戸先生と山名先生には排泄障害に関連する仙髄神経刺激の作用機序と適応効果について最新の情報を提供していただきました。

難治性病変を有する患者にとって福音となるべきこれらの治療法を脳・脊髄脊椎疾患に携わる多くの医療関係者ばかりではなく、愁訴に関連する多くの科の先生方に認知理解し普及につなげていただければ幸いです。最後に、執筆にご協力賜りました先生方にはあらためて深謝いたします。